

## Clinical Picture を活用した医学英語論文執筆教育システムの開発

### *Development of Educational System for Writing Medical Papers in English Using Clinical Picture*

防衛医科大学校総合臨床部

副部長・准教授 大野 洋介

#### 研究期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

#### 研究の概要

【背景】医師は臨床の実践者であると同時に医学に新しい知見をもたらす研究者である。医師の臨床教育は臨床研修制度等により確保されているものの、科学論文を執筆するための系統的な教育システムは十分に確立されていない。特に、若手医師の医学英語論文執筆教育の機会は所属施設により大きく異なり、多くは個人の学習努力に依存する。また、論文執筆経験のない医師が、原著論文の執筆に取り組むことはハードルが高い。

【目的】Clinical Picture 論文（1～4枚の臨床画像と150～500 words 程度の文章で構成）を英語で執筆する作業を通して、若手医師が医学的知見を報告する方法や文章の論理構成を含むメディカルライティングの基礎を習得するための教育システムの開発を目指す。

【方法】若手医師を対象として、経験した症例に関する Clinical Picture 論文の執筆指導を行う。執筆に取り組む前に分からなかった事や不安に感じていた事を聴取し、指導事項として体系化し、チェックリストを作成する。臨床系トップジャーナルである The New England Journal of Medicine に掲載済みの Clinical Picture 論文 (Images in Clinical Medicine) を活用して、キーセンテンスや定型表現の抜き出し、論理やストーリー構成などパラグラフライティングの基礎について指導する。カバーレター・タイトルページ・本文の書き方、文献の検索・引用法、投稿画像の準備、原稿ファイルのオンラインでの投稿の仕方、査読コメントへの対応など、論文投稿

を行う上で必要な一連の流れを Side by side で指導し、経験させる。

【結果】若手医師5名（初期・専門研修医、大学院生）に対して論文執筆技法とオンライン投稿法の指導を行った。Clinical Picture 論文の執筆技法を習得した医師に対しては、応用編として症例報告論文・Opinion 論文・Literature Review 論文・原著論文を執筆させた。Clinical Picture 論文の執筆指導のためのチェックリスト（大項目：執筆開始前の予備知識、本文の書き方、画像の準備、引用文献、カバーレター、英文校正会社の利用、オンラインで投稿する方法、査読コメントへの対応、Reject または Accept された場合の対応など）を作成し、第26回日本病院総合診療医学会学術総会（2023年2月18日～19日開催）で発表した。また、Clinical Picture 論文の投稿先 Journal 一覧表（項目：著者数、word数、画像枚数、引用文献数、患者同意書の提出有無、掲載料）を作成した。さらに、初心者に対して Clinical Picture 論文の執筆指導を行うためのルーブリック評価表（評価項目：タイトル、症例提示、診断、鑑別診断、治療と転帰、考察、結論、引用文献、文法とスペル、全体の構成、文章の質、倫理性、画像）を作成した。

【考察】論文執筆経験のない医師は、Clinical Picture 論文の執筆から開始すると、ハードルが低く取り組みやすい。教育を行う上で最も大切なことは、小さな成功体験を積み重ねて自信をつけさせ、徐々にステップアップしていくことであるからだ。

【今後の予定】体系化した教育システムの有効性について、ルーブリックを用いた点数化により評価し、逐次改良して教育システムの確立と論文文化を目指したい。